カレッジ通信

編集・発行
東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！
TEL
03-
5950-1771

3月10日（日）は、第22期生 卒業制作発表会

2年間の学びの成果を自由テーマで披露

東京建築カレッジは2年間の教育プログラムの総まとめとして「卒業制作」を位置付けています。今年度は3月10日（土）午後1時から池袋校舎3階で発表会を開催します。本校で学んだ成果を各自が自由テーマで制作した力作をぜひご覧ください。観覧ご希望の方は会場準備の都合上、3月8日（金）までにご連絡ください。

観覧大歓迎！

卒業制作は、東京建築カレッジの全科目の中で唯一、研修生が各自のテーマを自由に決めることができる授業です。本校の研修生には、大学の建築学科などで「卒業設計」を経験した人はほとんどいません。そうした中、構想、コンセプトワーク、テーマの設定、見積り、設計図書づくり、工程管理から、施工に至るまで、限られた時間の中で自主的に作業を進め、発表会当日を迎えます。

12月28日（金）のプレ発表会では、構想の図面への落とし込みが先生方から点検されました（左上写真）。建築の仕事の流れ、計画したものを完成させるために何が必要か？自分の理解度が問われます。

先生方のアドバイスを受けて必要な修正を行ないつつ、作業はいよいよ本番へ。そして、たどり着くのが3月10日（日）の卒業制作発表会となります。感動を与える出来映えの作品から、「なんでこんなことになっちゃったんだ」と首を傾げたくなるものまで、バラエティーに富み、見ごたえがあります。ぜひ、お気軽に観覧ください。

第22期生　卒業制作
①〔こたつ〕班
②〔囲炉裏〕班
③〔校舎木造化計画〕班
④〔犬小屋〕班
⑤〔鐘楼〕班
⑥〔十二角堂〕班
⑦〔神輿制作〕班

観覧ご希望の方は、会場整理の都合上、事前にご連絡ください。東京土建技術研修センター内、東京建築カレッジ
電話03・5950・1771、ファクス03・5950・1774、ウェブサイト、フェイスブック経由のメールでも参加登録を受け付けます。

学びの成果が問われる卒業制作。
12月28日「卒制プレ発表会」の一場面。右は小林謙二学校長

「神輿は奥が深い。時間とのたたかいですよ」。
平日にも作業する〔神輿制作〕班の篠原昌弘さん（左官）

第24期生（4月入学）最終募集

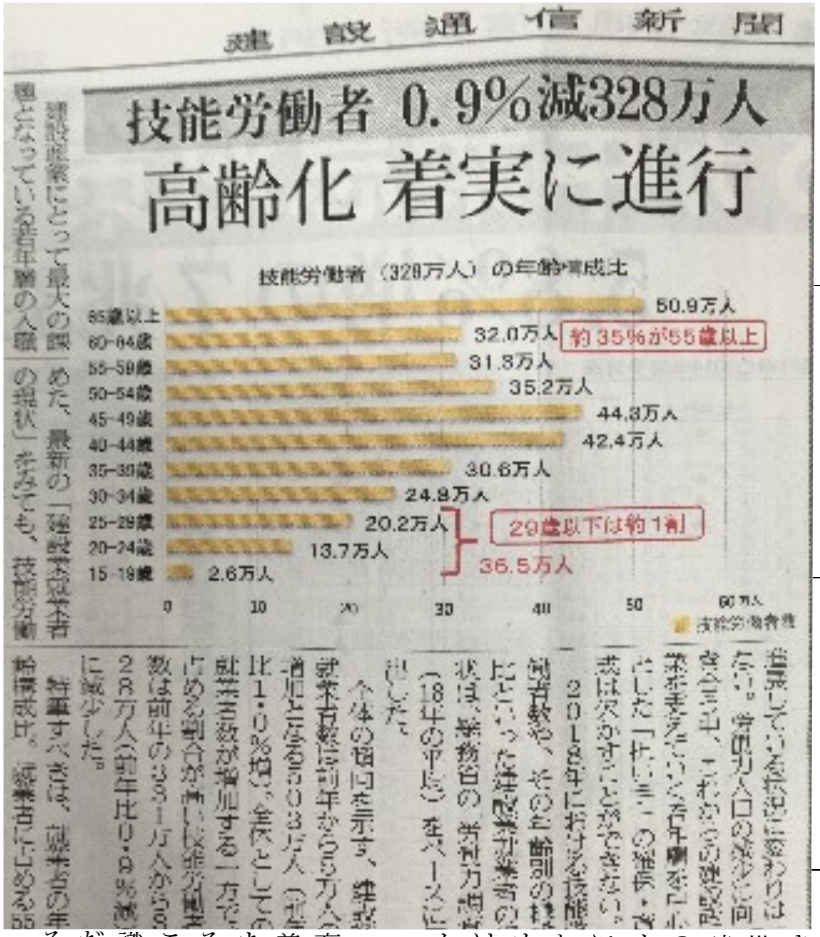
お世話になっている皆様へ。
東京建築カレッジの新入生募集は最終盤を迎えています。入学定員まであと若干名余裕があるので、新たな応募者にたいして、臨時の入学選考会を行なう予定です。

「やはり応募したい」「この人を学ばせたい」という方は、3月16日（土）夜7時までに、ご連絡ください。

若手技能労働者の確保と育成は中小建設事業主の死活課題です。趣旨をご理解の上、積極的な応募と情報提供をお願いします。

本校の存在意義・役割発揮が重要

←2019年2月26日付
「建設通信新聞」第一面


建設通信新聞

技能労働者 0.9%減328万人

高齢化 着実に進行

技能労働者（328万人）の年齢構成比

年齢	人数
65歳以上	50.9万人
60-64歳	32.0万人
55-59歳	31.8万人
50-54歳	35.2万人
45-49歳	44.3万人
40-44歳	42.4万人
35-39歳	30.6万人
30-34歳	24.8万人
25-29歳	20.2万人
20-24歳	13.7万人
15-19歳	2.6万人

約35%が55歳以上

29歳以下は約1割
36.5万人

0　10　20　30　40　50　60万人

技能労働者数

建設産業にとって最大の課題となっている若年層の入職の現状」をみても、技能労働

若年入職者の確保が最大課題

2月26日付の『建設通信新聞』は、第一面で、国土交通省がまとめた最新の「建設業就業者の現状」の解説を掲載しました。技能労働者の高齢化が深刻な事態で進み、「建設産業にとって最大の課題」が若年層の入職者の確保である、と強調しました。

この記事では技能労働者328万人のうち、29歳以下は36万5千人で約1割しかいないとしています。ただし、この数値報告は建設業全体です。住宅分野では今も大勢を占める木造建築の現場施工の主たる担い手である中小零細建設業ではどうか、さらに手道具・手刻みができる人ではどうか、と想像すると、恐ろしくなります。

建築カレッジでは、実技実習の指導員の大半が本校の卒業生大工です。この方々は30～40代なので、学校では高齢化の深刻さを実感しにくいときもありますが、世界に誇る木造建築技術・技能の継承は、きわめて危うい状態に突入しているということを改めて再確認しなければなりません。。

本校のような教育機関の存在意義や役割がますます高まっていると言えますが、こうした情勢認識の共有化はまだまだと言わざるをえません。

主体の側の、情勢学習と意思統一、マンネリを排し、現状打開のために新しい施策の連打が今、必要な局面です。広範な市民への情報発信、広報活動も一層重要です。

そこで、2019年度の公開講座は、本校の存在意義を再度確認すると共に、強みを生かし「反転攻勢」するために今、何が求められているのか、本校関係者が学びあい、考えあうテーマ、内容で開催することにしました。

第21回公開講座は11月3日（日）

基調講演は、後藤治 工学院大学教授

「過去に学ぶこれからの木造（仮タイトル）」

木造建築の伝統を継承・発展できる新しいビジネスモデルを考えあう討論も実施します。

◇第21回公開講座

☆日時：11月3日（日）午後1時～5時。☆会場：「けんせつプラザ東京」（東京土建本部会館）5階［予定］。

☆構成：

▼第一部　基調講演「過去に学ぶこれからの木造」（仮タイトル）

工学院大学　建築学部　教授　後藤治さん（現在、工学院大学理事長）

『住宅建築』2018年4月号発売記念講演会『伝統構法の過去・現在・未来　後藤治・上野英二』「『住宅建築』2018年12月号所収」の問題提起から、本校の存在意義と課題を考える上で重要と考え、基調講演をお願いすることにしました。

後藤さんの最近の著作には『それでも、「木密」に住み続けたい！　路地裏で安全に暮らすための防災まちづくりの極意』（共著・彰国社、18年10月）などがあります。

▼第二部　パネルディスカッション「木造建築の第一線から見つめる未来」（仮タイトル）。本校の卒業生など第一線の大工、設計、工務店経営者、研究者がリアルな本音で語りあいます。司会も卒業生が務める予定です。ご期待ください。

住民本位のまちづくりの大切さを建築専門家として問題提起